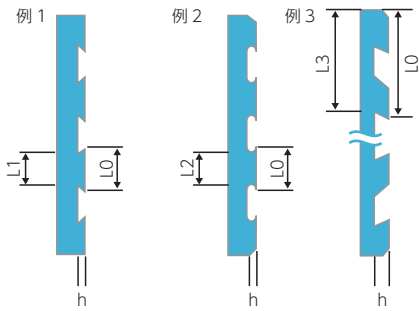


裏あしの形状および高さ(mm)



a) 裏あしの形状

屋外の壁でモルタル張り及びプレキャストコンクリート工法で施工するタイルは裏あしが必要です。形状は、あり状とします。あり状とは、図の例1、例2、例3のような形状をいいます。このとき、L1、L2、L3はL0より小さくなければなりません。

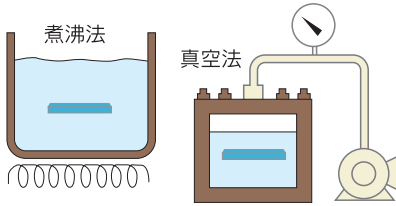
b) 裏あしの高さ(h)

製作寸法で定めた部分を測ります。

タイルの表面の面積	裏あしの高さ(mm)
15cm ² 未満	0.5以上3.5以下
15cm ² 以上60cm ² 未満	0.7以上3.5以下
60cm ² 以上	1.5以上3.5以下

タイルの目地共寸法が150×150mmおよび200×50mmのものについては1.2mm以上3.5mm以下とします。

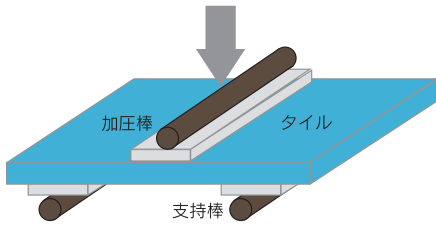
吸水率(%)



試験は、煮沸法または真空法のどちらかで測る強制吸水率で、素地が緻密かどうか、気孔が多いかどうかの目安になります。従来のような、自然状態でどれだけ吸水するかという試験ではないため、耐凍害性の判断には使えません。耐凍害性は凍結融解試験で評価します。

吸水率による区分	吸水率(%)
I類	3.0以下
II類	10.0以下
III類	50.0以下

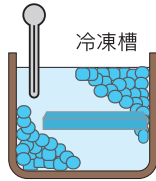
曲げ破壊荷重(N)



タイルの端から約5mmのところにおき、タイルの中央に荷重をかけたときの、タイル幅1mm、スパン1mmに換算したときの破壊荷重です。ただし、各辺が35mm以下のタイルには適用しません。

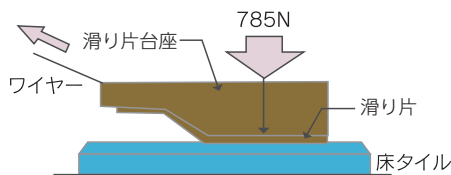
使用部位	タイル表面の面積	曲げ破壊荷重(N)	
屋内壁	—	108以上	
屋内床・浴室床	—	540以上	
屋外壁	モルタル張り用 タイル先付けプレキャストコンクリート工法用	60cm ² 未満 60cm ² 以上	540以上 720以上
	接着剤張り用	60cm ² 未満 60cm ² 以上	540以上 1,080以上

耐凍害性
(気中凍結気中融解法)



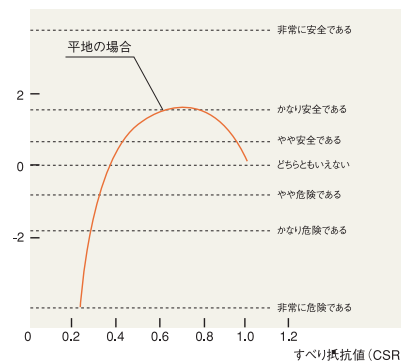
最初に清水中で自然吸水させたタイルを凍結状態と、融解させた状態とを100回繰り返します。タイルの表面および表面並びに端部に、ひび割れ、素地または釉薬のはがれなどの欠点が生じていないか目視観察します。凍害を受ける恐れのある場所使用するタイルに適用されます。

耐滑り性

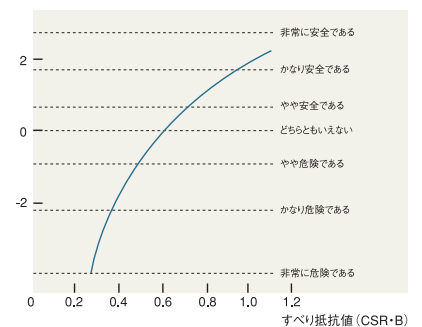


水濡れする場所の床に使用するタイルの人の歩行での耐滑り性について適用します。土足歩行の場合はCSR値、素足歩行の場合はCSR・B値で評価します。タイルの表面に泥水や雨水を想定した試験液をまいて、785Nの荷重をかけた滑り片を斜め上方に引っ張り、滑らせた時の抵抗を測定します。規格値はありません。

紳士靴で歩行する場合の安全性の評価



素足で歩行する場合の安全性の評価



(※東工大式すべり試験機O-Y-PSMIによる試験結果)